

赤平市炭鉱遺産活用検討協議会(第1回)

要点記録

開催日 平成28年7月4日(月)

時間 17:00～18:30

出席者 委員 14名 事務局 3名

～協議内容～

①委員紹介

②役員選出

③炭鉱遺産公園目標の委員提案

- ・誇りを育むまちづくり教育
- ・本物・リアルを徹底的に表現するための仕掛け
- ・市民参加を促す吸引力のある場づくり
- ・空知の一員としての役割を果たし一緒に浮上するための重要拠点

④炭鉱遺産公園目的別エリアの委員提案

- ・立坑ゾーン
- ・浴場跡ゾーン
- ・自走枠工場ゾーン
- ・線路の記憶ゾーン
- ・炭鉱施設の森ゾーン
- ・スポーツ多目的ゾーン
- ・遊びのゾーン

⑤炭鉱遺産に関する全委員の思いを発表

- ・炭鉱の歴史に関連する鉄道・港とのストーリー性が必要
- ・国内でも一番大切に保存されている炭鉱施設
- ・今ある風景を活かした空間利用が必要
- ・この場所から新たなまちづくりへ展開
- ・自分の足元、まちの素晴らしさを知る場所にしたい
- ・やる以上はお金も必要になってくるので腹をくくるべき
- ・古い建物なので早めの補修が必要
- ・炭鉱機械を補修するための後継者が必要
- ・市民にとって立坑は当たり前の景色となっている
- ・立坑とズリ山は赤平のシンボル
- ・子ども達の授業でも活用されており継続すべき

- ・雑木の整理が必要
- ・高齢化すると散歩が多くなるので、そのコースにできる
- ・市民や企業、団体等の協力を得て、みんなで作り上げるべき

赤平市炭鉱遺産活用検討協議会(第2回)

要点記録

開催日 平成28年8月2日(火)

時間 17:00~19:10

出席者 委員 11名 事務局 3名

～協議内容～

2班に分かれて目標・目的別エリア等についてワークショップ

A班

■目的(最終的な目標は何か)

- ・当時働いていた人が炭鉱に誇りを持って欲しい
- ・個々で働いていた人みんなが主役になってほしい
→炭鉱を通して社会と接し、生きがいを持てるようにする
- ・生涯やりがいがあるまちを目指す
→現役の炭鉱マンが存命のうちに場を提供する
- ・市外の人に「赤平ってすごい」と思ってもらおう
→「炭鉱といえば赤平」と言われる環境づくりをする
→現場で働いていた人たちが話をし、自慢できるようにしたい
- ・将来「炭鉱施設を残してよかった」と言えるようにしたい
- ・帰ってきた時に立坑を見て「ホッとする」赤平市にしたい
→赤平のシンボルとして次世代につなげられるようにする

■方法(どのような方法がとれるか)

- ・市民レベルのガイドを設置する(元炭鉱マンなど)
- ・関連グッズの作成
- ・施設の利活用(資料館、イベントの開催、実際に浴場を使用した温泉等)
- ・立坑屋上からの写真撮影
- ・坑内見学ツアー
- ・炭鉱施設内部の見学
- ・落下物等に対応できる施設整備
- ・ランドマーク化
- ・建造物が朽ちていく過程を見学
- ・炭鉱に興味がある人に向けた整備をする
- ・自走枠工場の平らなスペースを活用(スケートボード、ゴルフ等)

- ・雑木を整理し、散歩コースや駐車場を整備する
- ・意欲的な炭鉱マン等を取り込み、仲間を広げていく
- ・まず炭鉱遺産の日本遺産登録を目標とし、更に上も目指していく
- ・他市と連携し、相互に魅力を高め合う（赤平には…があり、〇〇市には…がある）
- ・スポーツ施設等として整備し、プラスアルファとしての炭鉱整備

B班

■必要な設備について

- ・下水道施設→トイレがない
- ・立坑→浴場と地下で繋げる通路
- ・交流センターみらいからズリ山に行ける通路
- ・道路照明をLED化
- ・大きな駐車場

■立坑について

- ・防水整備が必要
- ・金属疲労している
- ・錆がすごい
- ・建物を直すなら早い方が良い
- ・建物をリフォーム
- ・基礎、天井が危ない
- ・雨漏りや冬に凍上してしまう

■景観・風景について

- ・こもれび通りの紅葉がきれい
- ・国道から立坑が見える
- ・立坑を塗装するのはNG
- ・立坑は今のまま保存
- ・赤色のイメージを活用
- ・他の産炭地と違い市内中心部に近い
- ・ランドマークとなる

■思い出・原風景

- ・子供の頃の思い出の場
- ・早坂自動車前→昔は住宅地
- ・住友の人→ラグビーのイメージ

■こんな人に来て

- ・炭鉱（やま）ガール
- ・昔の人々が帰って来られる場所
- ・坑内は若い人が感動する

- ・まちの誇りとして来てもらう
- ・結婚式などを挙げられないか

■活用方法

- ・エネルギーをテーマにできないか
- ・立坑をバックにコンサート
- ・昔の図面を見せられるような施設
- ・イベントでも使える事務所
- ・公園→ズリ山→子供がくる
- ・ズリ山を中心に遊べる公園
- ・実際に動く機械を展示
- ・線路を復元→トロッコ
- ・どこの区域まで入って良いかわからない
- ・炭鉱長屋→宿泊

赤平市炭鉱遺産活用検討協議会(第3回)

要点記録

開催日 平成28年9月5日(月)

時間 17:00~18:30

出席者 委員 13名 事務局 3名

～協議内容～

「炭鉱遺産公園基本目標」について前回のワークショップの内容確認・意見交換

- ・誇り！炭鉱の人々←社会と接点
- ・赤平ってすごい→シンボル・ランドマーク→市民（原風景、ほっとする）
- ・エネルギーの場→将来性、可能性
- ・アーカイブス→資料整理→こんなに残っている地域はない
- ・炭鉱の歴史→技術、会社、人→総合産業だった。
- ・もともと炭鉱は多様性
- ・赤平らしい→産業・ものづくり
- ・産業の本物の風景→人を集められる！ここだけのポテンシャル
- ・産業の魅力→ライトアップ
- ・奔別炭鉱→様々な技術の伝達→赤平へ
- ・現代の若者に伝えられるのでは→技術の心得
- ・1日では伝えられない→だから宿泊施設が必要！
- ・立坑を残す→閉山時は会社と行政も一致→フロートだった。
- ・歴史の重要性が認識されるよう時代が変わった。
- ・他と違う・・・歴史、対応・・・TANtanが繋いできた。
- ・立坑は情報のアンテナ、外との通気坑、缶切り（色々な歴史を開く）
- ・人を繋ぐ、物を繋ぐ、時を繋ぐ→接着剤
- ・色々な発想の大切さ！→素人、外の人が目ってすごい！
- ・面白いこと！→高齢の方も元気になる。
- ・神社に55本のオンコの木を！創業55年→今でも残っている
- ・色々な歴史を伝える→面白いことを伝える。
- ・TANtanまつり→様々な魅力が集まる。
- ・炭鉱レジェンド+ニューフェイス→本物と新→すごい

赤平市炭鉱遺産活用検討協議会(第4回)

要点記録

開催日 平成28年10月4日(火)

時間 17:00～19:00

出席者 委員 12名 事務局 3名

～協議内容～

協議内容中間取りまとめ

①赤平立坑の特質（生かすべき利点や環境）

- ・市民にとってのランドマーク、シンボルになっている
- …原風景・帰郷を認識する風景
- ・本物の産業の風景が残っている
- …現在の産業・技術との繋がりを表現できる可能性
- ・人の働いていた生々しさ、ぬくもり感、記憶を感じることが
できる…思いの伝承の手がかり
- ・既に保存活用のための練習、試行》が展開されている
- …ノウハウ・活動人材の蓄積
- ・追い風が吹いている…空知でのネットワーク模索
- …夕張・美唄・三笠・炭鉄港・日本遺産・世界遺産

②目指すべき姿・実現したい事柄(10年後の目指すべき姿)

- ・「赤平はすごいね！」と言われ尊敬を得る
- …保存活用の動き自体が赤平の先駆性・独自性を表現している、物的資源（資料・建物）が担保
- ・炭鉱マンや炭鉱で暮らしてきた人たちの誇り、思いを語り伝える
- …自分を相対化（社会の中で生き続ける）、人に自慢できるのが一番
- ・技術探求、創意工夫、安全といった産業の本質の心得を伝える
- …実践実習を通じて伝える赤平らしい独自の教育（子供たちなど）
- ・新旧、内外、老若など多様な人の思いや行動が交錯し新たな価値を生み出す
- …炭鉱の多様性という特質の再現、再構築、新たな価値を生み出す要素の組み合わせの仕組み
- ・単なる過去の保存ではなく、未来へ繋がる可能性を表現する
- …エネルギーの拠点としての取り組みと表現、空知内外ネットワークの伸展

③ 整備の基本方針

- ・段階的な整備

- …想定される最終形の土地利用を想定（20年スパン）
 - その基本線に沿って可能な部分から具体化する（1～10年スパン）
 - 10年後に環境変化・取り組み進展を評価して、最終形修正と10～20年スパン整備の検討
 - ・既存空間・施設の最大限の活用
- …場の記憶を持つ施設・空間を最大限に保存し資源として活用する（立坑事務所・坑口浴場ほか）
 - ・メリハリのある一体的な整備
- …駅裏空間を一体的に捉える
 - 住友側をガッチリ管理して余分な機能を排除・北炭側を状況に応じ多目的に受け入れる多様性
 - ・市民参加の担保
- …行政は最低限必要な基盤整備（博物館的施設、駐車場、最低限の動線、基礎的な環境整備ほか）
→市民は炭鉱の技を表現、再現する伝習実習の場（付加的な動線、空間保全ほか）
 - ・広域的な機能連関と分担
- …空知全体での機能重複を避け、必要な機能の具備
 - ・運営システムの重視
- …ハードだけではなく、よりもっと重要なマネジメントの仕組み・人材・機能・具体化を担保

赤平市炭鉱遺産活用検討協議会(第5回)

要点記録

開催日 平成28年11月1日(火)

時間 17:00~19:00

出席者 委員 12名 事務局 3名

～協議内容～

全体ワークショップ (炭鉱遺産公園基本目標について)

・財源を活用→鉄骨の塗装、溶接。雨漏りの修繕を優先すべきでは。何をどう活用するか、後に批判の出ないようなやり方が必要。

・耐震化や修繕などのレベルまで修繕をするべき？

→自己責任として最低限の補修にすべきか、見極めが必要。

・耐震上の問題で、いままでのように内部を案内できない？→ファンクラブに入会等特定多数ならば内部を案内できる。来年度に向けてルールの制定も必要。

・今まで内部を直接案内し、魅力を感じてもらった。外観だけの案内となると、一番の魅力が損なわれる。当初の目的から外れてしまう。

・立坑建屋、櫓の耐震化の必要は？→櫓は工作物で耐震診断の対象外となる。有識者などに補修の内容等も含め専門家のアドバイス・ノウハウを知りたい。

・地方創生拠点整備交付金のヒアリングを受けたが、既存施設の改修はハードルが高いように感じたが当市は民間から取得した施設である。ハードは今年度限りなので、出来る範囲内で活用できれば。

・事務所は書庫や通路だけでも雰囲気味わえる→ここだけ改修しては。

・事務所と立坑…一体感や雰囲気を壊さないやり方が必要

・物販等行うとあるが、炭鉱長屋を再現したものはどうか→インフォメーションセンターとしても活用

・宿泊施設→赤平市総合戦略でも重点施策に位置づけられている。

・「拠点整備交付金」は先導性が特に認められる場合金額の上限が無くなる。そうでない場合上限が6千万となり、出来る内容も限られる。

→1/2が交付対象となるので、目安として1億2千万円の事業が出来る。あくまで目安。残る経費については地方交付税で措置される補正予算債を充当できる。

・早急に手をつける必要のある場所→建屋(雨水対策)

・29年度中に行わなければならない。→やれることが限られる。

・広域市町村…ネットワークを築き、他市町村と連携・分担

赤平市炭鉱遺産活用検討協議会(第6回)

要点記録

開催日 平成28年11月10日(木)

時間 17:30~19:30

出席者 委員 9名 事務局 3名

～協議内容～

全体ワークショップ (炭鉱遺産公園基本目標について)

- ・どこをメインに拓くか、木を切るか→TANtan 等団体に活用してもらい、新しい光景を作ること意識。
- ・三角地でSLを活用することは出来ないか。→移設だけでも5千万以上かかる見込み。ハードと違って財源がない。中空知広域市町村圏組合の基金が取り崩されるので、他の事業との優先順位を考えたい。SLを優先することにはならないのでは。
- ・トイレは浄化槽を2,3年前まで使用していたが、老朽化しているため、維持費を考えると新しくしたほうがいいかも。
- ・下水道は踏み切りをまたいで整備になるのか→下水道認可区域外になる。
- ・ガイダンス施設→炭鉱が見えるロケーション。カフェや物販も同じように。
- ・宿泊施設→核となる場所が決まれば。炭鉱長屋風はどうか。
- ・昔の建物の再現→どうしてもスケールは小さい。安っぽくならないように。
- ・物販→産業遺産らしいもの。技術の伝達の間としても使用。
- ・ソフト事業→「地方創生推進交付金」「企業版ふるさと納税」の活用も検討。
- ・TANtan→若い人も増えている。次の世代につなげられるようなやり方をしたい。活躍できる場所が出来るとやり方も変わってくる。現在のガイド状況を映像化しては。
- ・赤平の季節感を出したやり方→ビアガーデン等のやり方。
- ・一つ一つ実績を出す→その次にステップアップ。

赤平市炭鉱遺産活用検討協議会(第7回)

要点記録

開催日 平成28年11月29日(火)

時間 17:00～19:40

出席者 委員 12名 事務局 3名

～協議内容～

①全体ワークショップ (炭鉱遺産公園基本目標について)

- ・有識者の視察を受け、行政側の活動は？→保存方法等についてレクチャーを受けた。
- ・浴場は全体的に古い。特に後から増設した箇所は劣化が目立つ。時間がかかるが活用する。
- ・立坑櫓、ヤード→ガラス張りの展示の仕方もいい。いまは応急処置にとどめる。
- ・駐車場→建物等に行きやすい場所に設置する必要。全体計画を頭に入れ整備する必要。
- ・自走枠→シャッターの補修をして欲しい。将来的な活用の仕方も考える必要。
- ・ガイダンス施設は通年？→基本的に通年。冬は寒いし安全上のリスクもあるので、映像での紹介やVRでの体験も視野に。
- ・普段入れないところ(地下通路)を写した映像があれば、冬季に来たお客さんも喜ぶのでは。
- ・来たお客さんをはっきりさせないような形。→冬季ならではのやり方もあるのでは。
- ・ガラス張りの施設→やろうと思った場所に出来るよう。雨にぬれないで見学できる、施設までいける通路。
- ・センター設置場所→炭鉱事務所(かまぼこ屋根)の西端。炭鉱を見ながら飲食が出来るようなイメージ。立坑の裏側が良いか。
- ・水がたまっている箇所→ポンプを動かせれば排水出来る。それを見越した電源等設備を整備する必要。
- ・銅像→炭鉱完成時にたてられた。歴史がある。
- ・立坑櫓→何らかの方法で補修。
- ・浄化槽等施設→施設設置の際に考慮。今の施設をベースに浄化槽で対応しては。
- ・ガイド対応→今後見学希望の増加が考えられるが、今の体制では50人(25人を二班)が限界。
- ・TANtan 法人化→法人化を検討。幅広い年齢層が手伝い等も含め関わってくれているが、法人化により離れる人が出ないか懸念。現状は市民団体として少しずつなじませていくしかないのでは。

②今後の方針

- ・立坑櫓…さび止めや補修をし、中に入れるような形にする。(平成29年度以降)
- ・管理…NPO(炭鉱の記憶推進事業団)で管理し、そこからTANtanに再委託等の形で運営。5

年以内に TANtan に引継ぎを条件。(NPO法人として体裁が整うまで)

- 資料…立坑事務所に資料を移動。

赤平市炭鉱遺産活用検討協議会(第8回)

要点記録

開催日 平成29年1月31日(火)

時間 17:00～19:00

出席者 委員 11名 事務局 3名

～協議内容～

①全体ワークショップ (炭鉱遺産公園基本目標について)

- ・ガイド…見学者に事前に説明できる場所→動画や資料を流し、理解を深めてからガイドを行いたい。
- ・炭鉱関連施設…最初は炭鉱関係者が多く見学に訪れたが、今は炭鉱を知っている世代の人が少なくなっているため、資料館の見せ方も変化をさせないと理解されない。
- ・ガイダンス施設…交付金採択の状況は現在厳しい。どのような方向性にするかの議論は引き続き必要。
- ・例えば道路の舗装等に「あかびら市民まちづくり提案事業」を活用し、マンパワーを使って整備を進める方法もある。
- ・「あかびら市民まちづくり提案事業」の意見で「景観を良くする」事業が候補にある。市民、特に子どもに植樹をしてもらい、市への愛着も持ってもらえる。
- ・拠点整備交付金が採択されなかった場合のスケジュールは？→規模も含め見直しが必要。
- ・立坑事務所…出来れば使用したい→内部調査等カネも時間もかかる。
- ・立坑ガイド…今後どのような形で行えるのか→今後協議して行きたい。最低限現在の形式を保てるようにしたい。
- ・TAntan 拠点…拠点のようなものがあれば活動もしやすい→現在でも2回の資料室や1階の会議室のような場所はある。利用できれば。
- ・ガイダンス施設等の配置は協議会と市で最終的に詰めて欲しい。

②今回の会議で定まった方針

- ・STEP方式…一度に全て手をつけるのではなく、段階的に整備。
- ・STEP0…基盤を固め、まずは公開に向けた疑問・不安を取り除くことを目指す。
- ・事業費…協議会の方針とは異なる。あくまで市で試算する。(数億くらい)

協議会の方でSTEP0の内容及び文言を詰め委員に提示し、それを受け最終的に市で構想を作成する。